

## 取組の概要

## 対象畜種

採卵鶏

## 協議会構成員

畜産農家：(有) 福田ファーム 生産農家：(農) 農三、  
いずも農業協同組合、全農島根県本部、西日本くみあい  
飼料、島根県

## 飼料用米生産面積

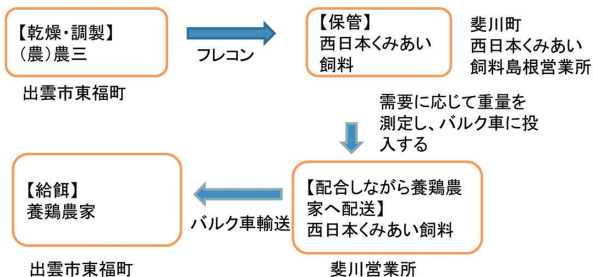
0.8ha

## 供試品種

タカナリ 0.8ha

## 取組内容

## ① 飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



- ◆ 養鶏農家の依頼に応じて耕種農家が必要量を生産
- ◆ 耕種農家の自家乾燥で西日本くみあい飼料へ運送
- ◆ 西日本くみあい飼料は、粉重量の測定、保管、配合を請け負う。
- ◆ 粉重量分だけ工場出荷量を減量して、斐川営業所で差分の粉をバルク車に投入

## ② 飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査

## 【目的】

- ◆ 飼料米（玄米）を約10%配合した飼料を、採卵鶏（10～16か月令、7～10か月令）に給与。

## 【実施期間】

- ◆ 平成20年9月から平成21年2月

## 【実施方法】

## (1) 産卵成績

養鶏農家の地元である久多美地区で生産された飼料米（粉給餌タカナリ）を5～10%IPマッシュに配合し、産卵率、産卵量、体重を調査した。

①無給期間から調査を開始し、②5%期間（1ヶ月）、次に③④5%と10%（それぞれ2ヶ月間）を追跡し、飼料米の無くなった後の⑤無給期間（1ヶ月）の計5回を調査対象区と比較した。

## (2) 卵質検査

卵質は、食品安全検査機構に検査を依頼し、卵重、卵殻強度、卵殻厚み、HU、YCFの検査を2週間を目安に8回行ない対象区と比較した。

## ③ 飼料用米を利用した畜産物の普及活動

- ◆ 短期間の給餌であったため、普及活動は当初から計画していなかった。
- ◆ 量的にも少なく本格的な販売は出来なかった。
- ◆ 生協での試食や県職員さんの文化祭で販売宣伝した。

## 取組によってわかったこと

## 1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- 主食玄米を想定する生産農家で粉出荷するためには、製造ラインから粉摺機を外す必要があります。この事によって生産農家では、重量の測定が出来なくなります。
- 養鶏農家要望のフレコン出荷は、相当に大型の担い手農家でなければ、ユニックヤリフト、パレット等の設備が無ければ対応できません。
- 粉保管すれば過剰な乾燥は必要なく、粉摺りの労力も削減可能になります。
- 配合方法は、バルク車に添加することとしたが、まずまずの混ぜり具合ではありますが、工場でのミキシングが望ましいようです。
- 飼料メーカーの工場では、玄米配合しか出来ないらしく工場での粉配合ができるよう改善していただきたい。
- JAのCE等の対応でなければ、主食用との混入問題の回避や小規模農家での飼料米の作付が出来ず、面積拡大は難しいでしょう。

## 2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

- 産卵成績、体重、卵質いずれにも大きな変化は見られませんでした。

- 玉子の成分分析も行ないましたが、ビタミンB12を除くほとんどの栄養成分が僅かに低下し、飼料米の給餌割合が高いほどこの傾向がありました。しかし問題になるほどの栄養成分の低下では、ありませんでした。
- 粉の未消化が心配されましたが、鶏糞に変化はありませんでした。
- 可食量にも変化はありませんでした。

### 3. 今後の飼料用米の取組予定などについて

- 今回の久多美協議会での試験では、西日本くみあい飼料の厚意により保管場所の確保や粉配合を臨時に対応することがなんとか可能になりましたが、一般流通するとなれば画一された生産・流通ルールが必要になります。

JAいずもでは、平成21年度に60ha、平成23年には、150haまで作付面積の拡大を計画していますが、養鶏農家の飼料給餌拡大の要望や耕作放棄地解消を実現するためには、小規模農家の作付を推奨する必要があります。主食との混入の問題やフレコン出荷の問題、乾燥設備の無い農家への対応には、JAがCE等の施設を整備し、飼料米用乾燥調製貯蔵施設を用意することが必須と考えています。耕畜農家のマッチング、飼料メーカーや関係機関連携等々……JAの役割は重要と考えています。

飼料米の生産は、農業の中の様々な部門はもちろんですが、地域活性化や生活環境にまで好影響を与える事が期待されていますが、登録農薬が少ないことや残留農薬の基準値の設定、飼料工場での粉配合、現場段階での栽培技術・指針の確立等々まだまだ課題は山積であります。

生産コストや流通経費にかかる行政支援の拡充・継続と強力な指導を宜しくお願い致します。

JAいずも営農部営農企画課 原田 透